



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二三四号〜

白露

九月七日

伊勢の八草

秋の花といえは、「秋の七草」が知られます。もともとは、万葉の歌人、山上憶良が詠んだ二首の和歌から、日本の秋を代表する草花になりました。

秋の野に 咲きたる花を 指折り

かき数ふれば 七種の花

『万葉集』巻八・一五三七

萩の花 尾花（ススキ）

葛花 瞿麦の花 女郎花

また藤袴 朝貌の花

『万葉集』巻八・一五三八

朝貌の花は、一般的には「桔梗」を指すとするのが有力です。七つの花の名の頭文字をとって「オスキナフクハ」と覚えることができます。

伊勢には、伊勢とつく花が八つあると植物に詳しい方に教えてもらいました。「伊勢の八草」というそうです。

伊勢菊（キク科）、

伊勢菖蒲（アヤメ科）、

伊勢撫子（ナデシコ科）、

伊勢竜胆（リンドウ科）、

伊勢花火（キツネノマゴ科）、

伊勢椿（ツバキ科）、

伊勢日陰躑躅（ツツジ科）、

伊勢蘭（ラン科）。

伊勢花火、伊勢日陰躑躅は初めて聞く名前でした。秋に見られるのは、伊勢菊、伊勢撫子、伊勢竜胆。伊勢菊は、江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域で独特に発展した古典菊の一つで、伊勢地方で発展したためこの名があります。ほかに嵯峨菊、江戸菊、肥後菊など昔の地名が付いた菊があるのもこのためです。伊勢菊は、花卉がだらりと垂れたのが特徴。花期は十、十一月で、おかげ横丁伊勢路裁苑でも見られます。

文 千種清美

【訂正】

暮らしのぞき箱 第二三三号 処暑の内容で、ひさはヒササキ（柿の代用）から来ているのかもしれませんが、実際は、ヒサカキでした。訂正してお詫び申し上げます。

